

教員養成大学における必修体育授業の種目選択に関する研究

－運動経験や体育授業に対する意識との関連－

武田桃花（京都教育大学）

1. 目的

本研究の目的は、教員養成大学における必修体育の種目選択に及ぼす要因を明らかにすることであり、過去の運動経験や体育授業に対する意識を中心に検討していく。

2. 研究方法

- 1) 対象者：令和3年度京都教育大学「生涯スポーツ実習」（前期）のうち第一希望種目がキャンパス実習だった者を除いた212名を分析対象
- 2) 調査方法：以下の質問紙調査を実施した。
 - ①体育授業の好悪感に関する質問紙
 - ②スポーツ実技科目受講満足度尺度
 - ③種目選択理由に関する質問紙
- 3) 分析方法：得られたデータは χ^2 検定、一元配置分散分析、多重比較および因子分析の統計処理を行った。

3. 結果と考察

1) 運動経験や体育授業に対する意識と選択種目の関連性について

種目選択の傾向において男子は球技系を、女子は球技以外を選択する者が多いことが明らかとなり、運動経験において中学校・高等学校とも同様に、運動部活動に所属していなかった者が競技系ではない「レクスポーツ」「フィットネス・護身術」を選択する傾向があることが明らかとなった。また、運動や体育に対する好悪感において好意得点が高いほど「団体球技」「テニス」を、好意得点が高いほど「団体球技」「テニス」を、好意得点が高いほど「団体球技」「テニス」を、好意得点が高いほど「団体球技」「テニス」を選択しやすいことが明らかとなり、特に高校体育授業への好悪感との関連が強く認められた。

2) 種目選択理由について

選択種目別においては、「団体球技」の者は経験があつて得意、好きで楽しそうという理由、「テニ

ス」の者は健康向上や楽しそう、経験があるが今まで選択できていなかったという理由が大きいとわかった。「レクスポーツ」の者は今までに経験がないが楽しそうで簡単に取り組むことができそうという理由、「フィットネス・護身術」の者は体育や運動、他種目への嫌悪感がある、自分でも簡単に楽しんで取り組みそうという理由で選択する傾向があることが明らかとなった。

3) 履修種目への満足度について

履修種目別においては、「団体球技」「レクスポーツ」で対人関係促進に関する満足度が高く、「テニス」「レクスポーツ」で教員の取り組みに関する満足度が高いことがわかった。「レクスポーツ」「フィットネス・護身術」ではスポーツの多様性に関する満足度が高いことが明らかとなった。また、体育授業に対する好悪感においては、高校体育が「大好き」の者は対人関係促進、ストレス運動不足の解消に関して顕著に満足度が高く、高校体育好意得点が高いほど満足度も高いことが認められた。しかし、満足度の合計得点では有意差が認められず、高校体育に対する好意感の違いに関わらず平均して高い得点であることが明らかとなった。

4. 結論

本研究では、過去の運動経験や体育授業に対する意識は、必修体育授業の選択種目やその種目選択理由に対して大きな影響を及ぼしていることが明らかとなった。また、授業への満足度は履修種目ごとに傾向に違いはあるが、体育授業に対する意識の違いによって満足度に直接影響するわけではなかった。満足度合計得点では有意差が見られず高い得点が見られたことから、必修体育授業において学生自身で種目を選択できることが、高校体育への好悪感によらない高い満足度に繋がったのだと考えられる。